

森づくり最前線

静岡森林管理署 表富士森林事務所 森林官 知野 隆貞

4月から静岡森林管理署の表富士森林事務所勤務となり3か月が経過したところです。管理する国有林は静岡県東部に位置しており、我が国の最高峰である富士山などを含めて約3,700haあります。林況は山地帯から亜高山帯への垂直分布が見られ、人工林は標高

約1,300m付近まではヒノキ林、1,300～1,800m付近まではウラジロモミやカラマツなどが分布しています。特に富士山の厳しい環境で育ったヒノキは木目が細かく、強度や耐久性に優れているため、地域のブランドである「富士ヒノキ」の生産地として、安定的な供給が期待されています。



▲ 富士山と国有林



▲ 富士山と木材生産現場

富士山は、2013年に世界文化遺産に登録されて、国有林内にも構成資産の一つである富士宮口登山道があり、富士宮ルートでは夏期シーズンには国内外を問わず年間約6万人の登山客が訪れています。また、富士山南麓には昭和45年に全国で初めて指定された「富士山自然休養林」があり、キャンプ場や遊歩道等が整備され、ブナ、ミズナラなどの天然林やヒノキ、ウラジロモミなどの人工林を散策できます。このような中、我が森林事務所においては毎



▲ 山の神

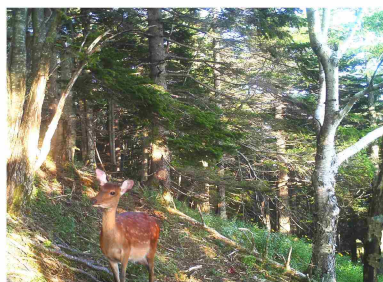
年度、森林官を始めGSS（グリーン・サポート・スタッフ）を雇用して、シーズン中の巡視活動や登山マナーの普及啓発等の保全管理対策を実施しています。

また、管内国有林においては、平成8年9月の台風17号により大規模な風倒被害を受けましたが、「法人の森」分収林や協定方式等により、多くの企業やボランティア等の方々の協力を得ながら森林の再生に取り組んできたところです。コロナ禍により活動は縮小していましたが、多くの企業等から活動を再開したいとの要望があり、今年度から再び多くの企業やボランティア等と連携・協力しながら森林の再生に取り組んでいくことをしています。



▲ ボランティア作業

管轄する国有林の課題としては、ニホンジカによる森林被害が深刻化していることがあげられます。特に、静岡県による頭数調査では、富士地域全体の生息密度が29頭/km²に比べて、国有林内では62頭/km²と生息頭数が非常に多くなっています。このため、シカ防護柵の設置はもちろん、委託事業による「くくりわな」や「忍び猟」なども実施しています。今年度においては職員自らが「くくりわな」による捕獲を行うことも計画しています。本署と森林事務所で連携しながら捕獲技術の向上と適正な個体数管理に取り組んでいきたいと考えています。



▲ ニホンジカ